

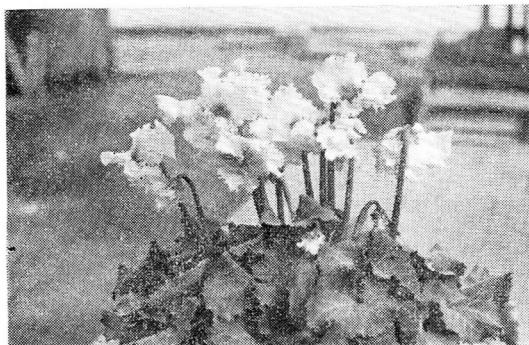
# 鉢物の買い方から手入れまで

玉川大学助教授 田 中 宏

どちらのご家庭でもそろそろ冬のご準備で何かとお忙しいことでしょう。あるいはこの雑誌を手にとられる皆様は主として畜産を営んでおられる方々とすると、寒さがきびしい地方であって、もはや冬への備えはすみになっているかもしれません。寒さのきびしい所に住む方ほどつらい冬を通りこして巡りくる春を一層こいこがれることでしょう。鉢物はそうしたあこがれを慰めてくれる贈物だと思います。ここではこの鉢物の取扱いについて書いてみました。どうぞ気楽な気持でお読み下さい。

## 鉢 物 の 種 類

鉢物とは「鉢に入れた作物」という意味ですから必ずしも草花に限りません。花の中には1~2年草も宿根草も花木もありますし、観葉植物とか盆栽も入ります。さらに広く考えますと野菜や果樹も鉢に入れれば鉢物になります。現に東京ではイチゴやブドウを鉢物にして売っていますし、ナスやパセリの鉢植えもみかけたことがあります。牧草でおなじみのコンフリーを鉢に植えておけば生長が速いですから毎日のおかずのたしになることでしょう。また鉢といっても、最近はプランターとかプラントボックスとかいって市販されているこぎれいな箱も立派な鉢物といえます。最近は外国でもポット(鉢)という代りにコンティナー(容器)という言葉を使っている程です。要するに容器に入った作物はすべて鉢物なのだと考えれば、どんな作物だってよく、あとはただ



シクラメン 冬の温室の女王といわれる高級鉢物

あなたのお好みのものを植えていただければよいわけです。ただ一般的には初心者むき、ベテランむきと育てるのに難易があることを考慮に入れて選んで下さい。

### 初心者むき

草花類  
球根類—チューリップ、ヒヤシンス、クロッカスなど  
宿根草類—鉢物菊(小、中輪)、ゼラニウム、ベゴニヤなど  
1~2年草類—サルビア、マリーゴールド、石竹など

### サボテン類

観葉植物類—ゴム、アナナス、アイビー、ドラセナなど

### ベテランむき

高級草花類—シクラメン、グロキシニヤ、球根ベゴニヤ、セントポーリヤなど

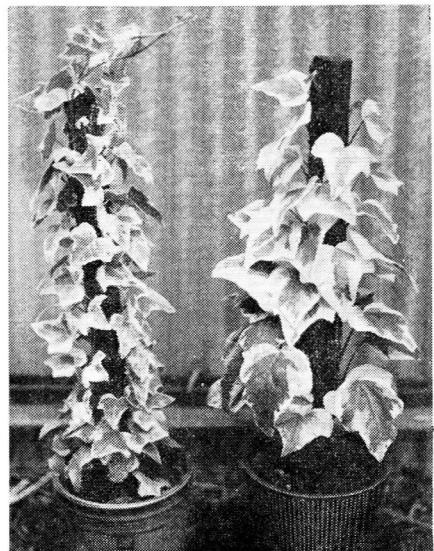
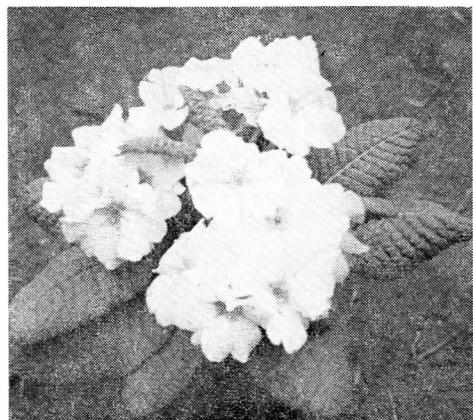
東洋ラン、洋ラン類—素心、寒ラン、シンビジューム、カトレア、デンドロビューム、ファレノプシスなど

盆栽類—松、しんばく、けやきなど(特に実をつけるもの)

もちろんこのわけ方には異論があるかもしれません。サボテンでも何十年のベテランでも作りにくい品種もあれば、チューリップだって花屋に売っているようなよい品質のものを作るには長年の経験を必要とします。またシクラメン、グロキシニヤなど高級鉢物といわれている



グロキシニヤ 高級鉢物で夏の女王といわれている



種類は種をまいて花を咲かせるのは容易ではありませんが、花店で買ってきただのを管理するのはむずかしくないのです。

### 鉢物の買い方

今まで私の所にはいろいろな方が花を買に来ました。ところが普通の小売商と違いまして同じ種類が沢山並べられているせいか、どうも目移りされるらしく、あれこれ迷った末、不思議にもその中では一番できのよくない品、満開すぎであとの楽しみの少ない品を選んでいかれるので、かえって気の毒に思ったものです。花の選び方としてはまず第一に力強いもの、そして第二につぼみの多いもの、第三に鉢物としてよくしまっているものという点に注意します。あの可憐な花に求められる第一の条件が力強さとは一寸奇異に思われるかもしれませんのが生々とたくましい健康美を発散させているもの、これが本当によい花なのです。この点は芸術品のホンモノと二

(左上) プリムラ・ポリア

ンタ 西洋桜草の一つ

(左下) アイビーのヘゴ仕立 寒さに強い観葉植物

(右上) 球根ベゴニヤ

高級鉢物の一つ

(右下) 花の選び方

力強さが第一

セモノの違いと同じ理屈でしょう。素人の方は現在花が咲いて一見華やかに見えるものを取ります。玄人はこの品は本当によい花を咲かせる能力があるかないかで選びます。八百屋の店先で野菜や果物の新鮮さを見分けられる主婦なら、花の本当の良否はおわかりのはずです。よくしまっているとは茎葉や花茎が軟かく徒長していないということで、これも力強い花を咲かせる条件です。ガラが大きいからいいというわけではありません。また鉢物は家庭で長く楽しむものですから、なるべくつぼみが多く、しかも病虫害に汚染されていないということも大切です。

### 鉢物のよい環境づくり

せっかくよい鉢物を求めて環境が悪ければだめにしてしまいます。さきにのべました鉢物の種類の難易というのは、一般的にはこの環境適応性が高いか低いか、つまり丈夫か弱いかということになるわけですが、ではどんな環境づくりに心がけたらよいでしょうか。

#### (ア) 光線

私は今まで庭のある公舎、またはアパートを1,2ヶ所と住所を変えましてつくづく感じたことですが、光線は重要なあといことです。鉢物で冬季一番困るのがこの光線です。冬期は室内におきますから光線不足になります。私達は室内にいてもそれほど暗さを感じませんが、写真をとると意外に暗く、顔がはっきり写らないでがっかりすることがよくあります。これは人間の眼の瞳孔が眼に感ずる明るさを自在に調節しており、カ

メラのレンズとは違うからです。植物は種類によってかなり違いますが、一般的にはたとえ南向きの窓際でも光線不足があることがほとんどです。特に花や実をつける草花、花木、植木類には不足しており、まず最初に花や実がぼろぼろ落ちてしまい、そのうち生気がなくなり、葉が全体に淡くなり下葉から黄色くなってしまってきます。従って真冬でも晴れていれば日中10時～2時半位まで窓を開けて直射日光にあてて下さい。東京付近なら日中は10°C以上ですから、たとえ曇っていても窓の外に出した方が成績がよいのです。その意味で冬季は特に温度よりも光線に気をつけて下さい。

#### (イ) 温 度

これはもう北國の方なら先刻ご承知、家庭の暖房はかえってゆきとどいているので、取扱いさえ誤らなければ大ていの鉢物は十分楽しむことができます。高級鉢物類や熱帯原産の観葉植物類、洋らん類の最低温度は5°～10°C位、短時間なら1°～2°C位でも枯れることはありません。外は吹雪で室内は花盛りというのも豊かな気分にさせられます。ただ一番気をつけてほしいのは湿度を忘れないでということで、冬の室内は空気が乾きすぎて鉢物によくないのです。そこで時には葉水を与える一葉に霧を吹いたり、ジョウロで水をかけることに心がけて下さい。これはまた葉にたまるほこりをはらい、植物が窒息するのを防止する効果もあります。暖かい日の午前中に1週間に一度位やるとよいでしょう。

温度は高ければいいかというとそうではなく、ほとんどの植物は最高25°C位が適当です。特に冬季夜と昼の温度差がありすぎるのよくありません。夜間暖房を切る部屋なら昼間もあまり室温をあげない方がよいのです。そんなわけで湿度と保温をかけて夜は大きなビニールの袋で覆うか、ビニールの囲いに入れたいものです。光線を補うため「植物育成ランプ」を取り付けてもよいでしょう。

#### (ウ) 水 分

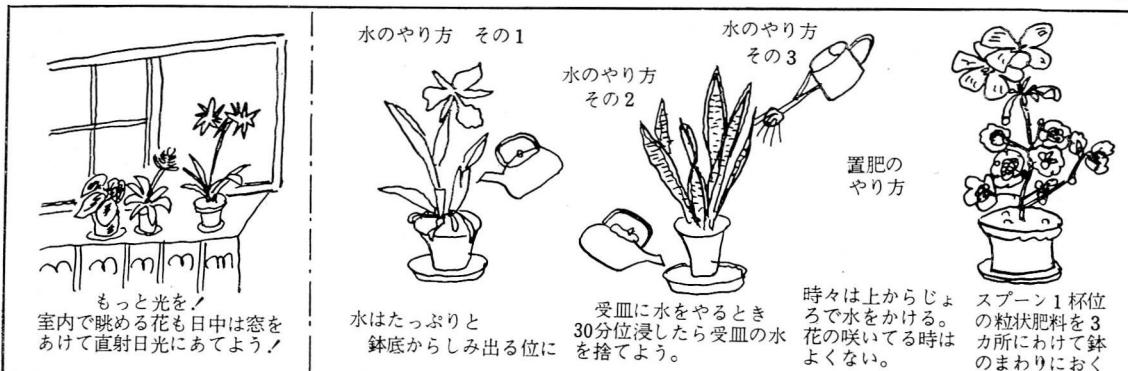
鉢物作りでは昔から「水やり三年」という言葉があっ

て、その技術は経験を必要とされています。必要なときに必要なだけ与えるという原則は、何年か花を育ててみて初めて会得するものでしょう。まず第一に鉢の種類によって加減します。素焼鉢が最も水はけ（透水性）がよく、ついで駄温、盆栽鉢（鳥泥、朱泥など）の順で、釉薬をかけた化粧鉢やプラスチック鉢などは全く透水性はありませんから、同じように水をやると、水はけの悪い鉢では土の中の水分が多くて空気（酸素）が不足し根腐れを起して枯れてしまいます。一般には素焼鉢が一番生育がよいのですから育苗中は素焼を使い、特に室内の観賞用にそれ以外の鉢を使うのだと思っていて下さい。そして水は大体素焼の1/3位が適当です。鉢土の表面が乾いてやや白っぽくなってきたら図のように鉢底の穴から水がしみ出る程度にたっぷりとやります。ごくわずかずつ度々やるのはよくありません。普通冬季は2～3日に1回、夏季は1日に1～2回が標準です。

よく受皿に水を一杯ためて鉢を飾っているのをみかけますが、これはいけません。受皿から水を吸わせる場合は30分位たったら受皿に残った余分の水を全部捨てて下さい。鉢底から吸った水が鉢土に一杯になってしまい根が呼吸できなくて枯れてしまいます。

#### (エ) 肥 料

最近はいろいろな種類が市販されるので迷ってしまいます。大別しますと有機質と化学肥料、粉粒状と液状のもの、速効性と緩効性とがあります。それぞれ特徴があるわけですが、鉢物では元肥や追肥として置肥（おきごえ）が、追肥として液肥があります。置肥は図のように粒状化成肥料（チッソ、リン酸、カリの成分が、6, 5, 5%位のもの）をスプーン一杯位を鉢のまわりに施します。油カスや骨粉のような有機質肥料は肥料としてはよくても発酵すると臭気がひどいので室内の鉢物用としてはおすすめできません。液肥は1～2週間に1回位ハイポネックスなどを水にとかしたものまたはもともと液体製品のものを水でうすめて灌水代りにかけてやります。非常にはやく効き目があらわれます。この置肥と液



肥を組み合わせるのが最もよい肥料のやり方です。高度化成肥料といって成分のパーセントが高いのは鉢物には強すぎるので使わないので無難です。

### 鉢を汚すそう（藻）類の防ぎ方

素焼鉢では新しい鉢を使っても1～2ヶ月たちますと表面に青ゴケが生え、美観を損ねるし、また触るとぬるぬるして手を汚します。これはそう類が生えるためです。この防ぎ方としては新しい素焼鉢をリニュロンまたはダイセンステンレスの薬液の中に一度浸してから使えばよいのです。リニュロン（商品名はアファロンまたはロックスといい、除草剤として市販）を千倍または2,000倍位の水にとかして作った溶液をバケツなどに入れ、素焼鉢を2分間位浸してから取出して乾かせばよいのです。数日乾かせばすぐに花を植えても大丈夫です。ダイ

センステンレス（花の殺菌剤として市販）は200倍に水でうすめ同様に使います。どちらも青ゴケ防止には大変よく、しかも長く効き、大体3ヶ月ないし半年位はこげがほとんど生えません。リニュロンの方が生きめは長続きするようです。除草剤なので作物に害があるかと心配になりますが、いくつかの花で試験をしたところでは大丈夫です。古い鉢を使う場合はいったんよく鉢をタワシなどで洗って乾かしてからこの薬剤を使って下さい。なおナフテン酸銅という薬剤も大変効果がありますがかなり高価です。いずれにしてもびっくりする程効果があり、素焼鉢のまま室内に飾ることができます。

以上ごく簡単に鉢物の取扱い方についてお話ししましたが、たとえ花屋さんから買ったものでも育ててみれば愛情がわいてきます。そして愛情があれば大ていのことはうまくいくものだと思います。

## ネクタリンの栽培

農林省園芸試験場 吉田 雅夫

### 1はじめに

ここ数年、果樹の種類・品種に関する問い合わせが目立つようになってきた。以前はせん定の方法や病虫害防除の方法など技術的な質問が多くたのに対して興味ある傾向である。これは農家の技術的レベルが向上したことともあろうが、米作転換をはじめとする農政の不安定さが栽培農家に種類・品種に対する関心を呼び起こしたのであろう。特に果樹はリンゴ、ミカンなど生産量があがってきて量から質の段階に移りつつある。これに貿易の自由化がからんで果物戦争は一段と激化してきた。ミカン地帯やリンゴ地帯から核果類やブドウの問い合わせがふえてきたのもこのへんの事情が反映しているのである。一方、都市化の波は多くの府県に及び、小面積でも収益のあがる果樹が以前にも増して要望されるようになってきた。こういう背景のもとに登場を期待されているのがネクタリンであろう。しかし、ネクタリンがどういうものであるかよく理解している人は少ないと思う。ここではネクタリンの特質を述べるとともに生産から消費にいたる問題点を示して、ネクタリンの経営の中に取り入れたいと考えている人の参考としたい。

### 2ネクタリンの特性

ネクタリンは果皮に毛がないためにスモモの一種と間違えられやすいが、無毛の点を除けばまったくモモと同じである。普通樹だけを見たらモモとネクタリンの区別はつかないであろう。

ネクタリンは果実の表面がすべすべしているため油桃、裸桃、椿桃、ズバイモモなどと呼ばれる。昔から北陸や東北地方の一部で栽培されていたが、これらは品質的に劣るため産業的にはみるべきものはなかった。現在栽培されているものは明治以後欧米から導入された品種で品質はすぐれているが栽培性と商品性にいくつかの欠点を持っている。特に欧洲系の性質を強くもっている品種は病気に弱く、夏期雨の多いところでは栽培が難しく、産地も限られる。また、日持ち性も不良で市場に近いところでしか栽培できないものが多い。しかし、近年アメリカで発表されている品種群はモモとネクタリンの交雑によって育成されたもので、栽培性と商品性がかなり改良されているという。わが国での栽培試験はまだあまり行なわれていないので、その適否はよくわからない。

ネクタリンを果物として、あるいは果樹として総括し